



DAI-TAI-DAI
DASH

OSAKA UNIVERSITY OF HEALTH AND SPORT SCIENCES
DAITAI-DAI ATHLETE SUPPORT & HIGH PERFORMANCE

2016-17 REPORT SUMMARY

大 体 大 D A S H 事 業 報 告



大体大DASHとは

START DASH

～いま始まる、大体大スポーツ革命～

大体大ビジョン2024「拠点づくりビジョン」の施策第一号として、
トップアスリートとその指導者を育成・サポートする
DASH “Daitaidai Athlete Support & High Performance”
プロジェクトを2016年4月より開始いたしました。
開学50年で培った大体大力をさらに高め、
コーチによる指導トレーニングに加え、
「競技力向上の科学的サポートと実践研究」「教育支援」
「生活支援」「キャリアサポート」を結集させ、
世界水準のスポーツ・研究施設を有する
キャンパスを拠点に、我が国の
スポーツ新時代を築く人材育成に
革命を起こします。

Contents

はじめに.....	02
大体大ビジョン2014とDASHのスタート.....	04
優れたスポーツ人材を育成する仕組み.....	06
プロジェクトのねらいと構成.....	08
DASHプロジェクトの概観.....	10
DASHプロジェクトと浪商学園・設置校のロードマップ.....	12
対象アスリートの動向とサポート内容.....	14
山本 沙羅、大西 迪瑠、金持 義和	
対象アスリートの動向とサポート内容.....	16
村田 透、山本 篤	
DASHプロジェクト関連研究活動.....	18
陸上トップアスリートの身体機能の解明とトップアスリートサポート・育成プロジェクト	
器械体操における競技力の可視化及び即時フィードバックシステムの構築	
ハイパフォーマンスを実現するアスリートサポート拠点形成事業	
DASHプロジェクト特別セミナー、イベントなど.....	24
DASHプロジェクト関連施策.....	26
DASHプロジェクト広報・PR活動・パブリシティ実績.....	28
DASHプロジェクトの展望.....	29

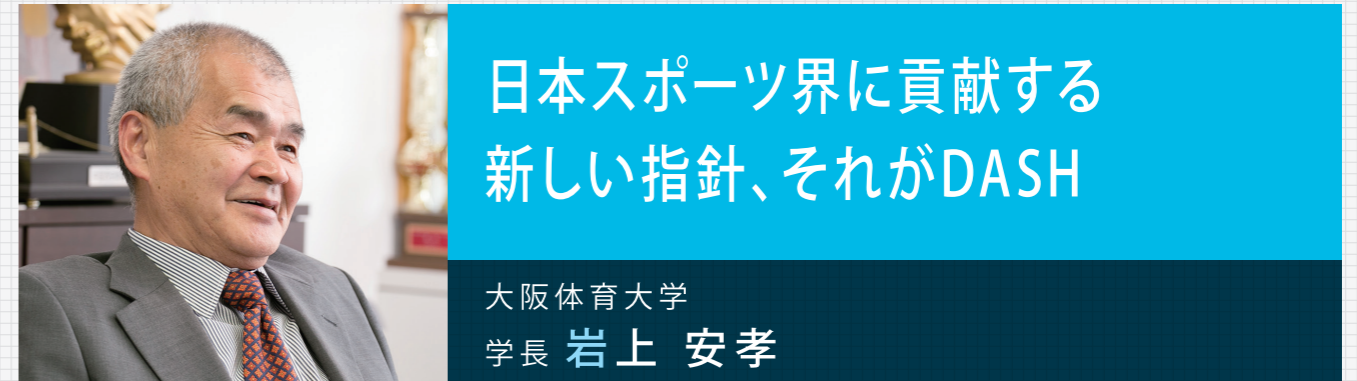


大体大DASHプロジェクトは、アスリートを中心に、本学を代表する優れた指導者や研究者が専門の枠を超えてひとつになる、という崇高な理念のもと展開される構想です。2015年に開学50周年を迎え、2016年は100周年を見据えた「第二の開学」のスタートの年となった大阪体育大学が次の50年を見据えるためにふさわしい取り組みであると、開始から1年が経過した現在、その着実な歩みを確認することで、その想いを強くしています。

これまでスポーツという同じフィールドにありながら、選手を直接指導するコーチやトレーナーと、科学という側面から選手の能力を高める研究者との連携は簡単ではありませんでした。お互いに専門家として、それぞれの分野で輝かしい成果を創り上げてきたものの、それを束にして高めていくというプロセスが採用される機会に恵まれてこなかったのです。それをDASHという大きな旗印のもと、存在する困難を乗り越えながら「強いアスリートを輩出する」という目的に向かって手を携える発想は、体育大学である我が校が率先して行うべきものに他なりません。

DASHは我が校独自の取り組みではありますが、これが日本中の体育系大学へ与える影響力は少なくありません。すでに他大学との連携はスタートしていますが、大学同士の横のつながりが生み出す化学反応は、おそらく予想以上の好ましい結果を生み出す原動力になることでしょう。まさにこのプロジェクトは、新しい時代のスポーツの在り方、体育大学の担う役割を明確にするための先駆けとなる画期的なムーブメントなのです。

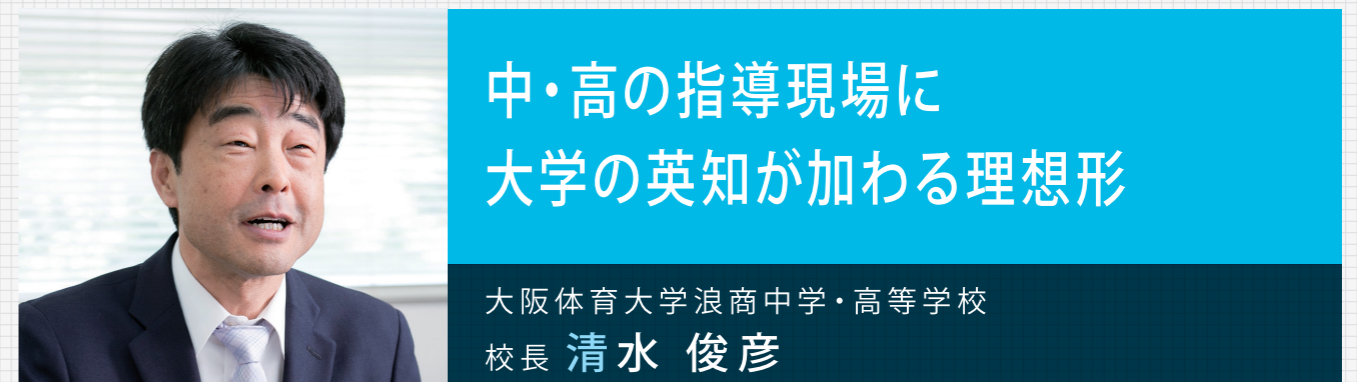
2020年の東京オリンピック・パラリンピックを前に、体育大学としては競技力の高いアスリートを1人でも多く輩出する使命があります。また95年前の開学時に本学園が目指した「国民の健康維持」としての体育教育も強化し続ける必要があります。そのすべての鍵になるのが、このDASHプロジェクトです。大阪体育大学の新しい時代を切り拓く輝かしい第一歩を踏み出したことを実感し、今後も将来の日本スポーツ界のビジョンを描いていきたいと思えます。



2015年に開学50周年を迎えた本学では、次の10年に向けて研究、教育、拠点づくりを柱にした「大体大ビジョン2024」を策定しました。「DASH」は、その中の「拠点づくりビジョン」を見える化したプロジェクトといえます。

学内の研究、指導、サポートのメソッドを体系化し、優れた施設や人材が整った本学キャンパスにおいて提供していくDASHの試みは、トップアスリートの育成・強化はもとより、スポーツを通じて地域の子どもからお年寄りまでの健康を支えるという目標に向かって重要な役割を果たすものとなります。

優れたアスリート、指導者、研究者を輩出し、それらすべてが人間的な魅力に溢れた人材であること。その事実こそがDASHが生み出す生産物であり、その先に進むべく次のステージにつながります。DASHプロジェクトを着実に構築し、自国開催となるオリンピック・パラリンピックに向けて学内で共有できる基盤として定着し進化していくことを、全学を挙げて目指していきます。



我が校は、大阪体育大学というスポーツ科学の最先端である教育機関が連携校として存在する、恵まれた環境にあります。しかしこれまでは、中学校・高等学校の部活動という枠組みのなかで、限られた人数の先生による指導が主流とならざるをえない状況がありました。

DASHのスタートにより、中・高の指導者と大学の優れた研究者との交流が活性化され、選手一人ひとりを多方面からサポートする体制が確立されつつあります。そのメリットが大きなアドバンテージとなって、競技力と指導力の向上に大きく寄与することでしょう。

このDASHプロジェクトが社会的に誰もが認める成果として発展することができれば、「体育」の分野にスポットを当てた“スーパー・アスレチック・ハイスクール”などという新しいモデル校として我が校が選定される日が訪れるかもしれません。そんな期待を抱かせるDASHに、私も大いなる夢を描かずにはられません。

大体大ビジョン2014とDASHのスタート

DASHは、2015年の開学50周年時に次の10年を見据えて発表した「大体大ビジョン2024」の「拠点づくりビジョン」を具現化した取り組みです。アスリートを包括的にサポートする活動を通じ、体育系大学として社会に貢献するための新たな価値を創造することを目的としています。

大体大ビジョン2024

本学は「不断の努力により智・徳・体を修め社会に奉仕する」を建学の精神として、1965年に開学しました。それから50年が経過し、これからの10年で2020年東京オリンピック・パラリンピック大会をはじめ多くの国際大会が開催されることを鑑み、私たちは今一度この開学の精神を使命とし、その実現のために一丸となってチャレンジすることを決意しました。「大体大、新しい時代を切り拓く」というスローガンのもと、「大体大ビジョン2024」を掲げ、「研究ビジョン」「教育ビジョン」「拠点づくりビジョン」という3つの視点で、幸福で平和な社会づくりに貢献したいと考えています。

■大阪体育大学の目指す方向性

大体大ビジョン2024

建学の精神

不断の努力により智・徳・体を修め社会に奉仕する

「大体大、新しい時代を切り拓く」

体育・スポーツ・健康・福祉で社会の新たな価値創造

大体大とは

未来社会のあるべき姿を見据え、その実現のために使命感をもってチャレンジを続ける「人間力」です。

大体大=人間力を育むために

2024年に向けて実現を目指す3つのビジョン

研究ビジョン

体育学・スポーツ科学・教育学分野における新たな知の構築

教育ビジョン

専門知識、創造力、実践力、リーダーシップを備えた人材の育成

拠点づくりビジョン

地域社会の活性化に貢献する拠点、世界で活躍するアスリートと指導者を育成・サポートする拠点の形成

DASHプロジェクトは「拠点づくりビジョン」の施策（本学の中核事業）

DASHプロジェクトとは

DASH (Daitaidai Athlete Support & High Performance) は、アスリートのパフォーマンス向上とそれを支える質の高いスポーツ科学によるサポートを実現するプロジェクトです。そこに本学の強みである「研究力」「教育力」「生活支援力」「キャリア支援力」をシステムティックに融合させ、新しい未来を切り開く「人間力」を備えたスポーツ人材の育成を通して、体育・スポーツ系大学の本来「あるべき姿」を追求します。

DASH

DAITAI
ATHLETE

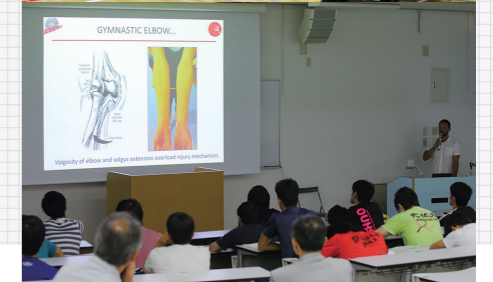
SUPPORT &
HIGH PERFORMANCE

ミッション

- 本学の研究・実践・人材の力を活かし、世界で活躍するアスリートと指導者を育成・サポートし、そのハイパフォーマンスを支える拠点となる
- 未来のスポーツ界を支え、そのあるべき姿を追求し、社会の発展に貢献する人材の育成を目指す
- 関西の大学スポーツのリーダーとして、学生スポーツの健全な発展をけん引する

目標

- アスリートと指導者のパフォーマンス向上を支える
- アスリート、指導者、研究者、そしてサポートスタッフを育成する
- ハイパフォーマンスに関するスポーツ科学研究の新たな知の構築に挑戦する
- ジュニア期からのアスリート一貫サポートシステムの構築を目指す
- 大学スポーツの健全な発展のためにリーダーシップを発揮する



優れたスポーツ人材を育成する仕組み

DASHではアスリートに対し「ハイパフォーマンスサポート」「キャリアサポート」「アカデミックサポート」「ライフスキルサポート」という4つのサポートを展開することで、競技力の向上はもちろん、人間力の高いスポーツ人材を育成していきます。

■DASHが提供する4つのサポート

【コーチによる競技現場で指導やトレーニング】



日本の体育・スポーツ界の未来を切り拓き、あるべき姿を牽引する人材の育成と輩出

ハイパフォーマンスサポート

- トレーニング科学
- バイオメカニクス
- スポーツ心理学
- 運動生理学
- スポーツ医学・リハビリテーション
- コーチング学
- スポーツ栄養学
- スポーツマネジメント 社会学・哲学

キャリアサポート

- キャリア教育
- 学内セミナー
- 公務員等採用試験対策
- グループ面談・個別面接
- 教職支援
- その他

アカデミックサポート

- 学習支援

ライフスキルサポート

- 生活支援
- ICT教育プログラム
- パブリシティ・セルフPRプログラム
- マーケティングプログラム

④アスレティックトレーニング

怪我の評価、応急手当、復帰までのトレーニング指導、再発予防法などを中心に、アスリートの怪我の予防に関する知識の提供と実践を行います。

⑤栄養サポート

管理栄養士を始めとする栄養の専門家が、食事の管理、指導など、食生活全般の見直しを行います。理想的なメニューの作成や栄養サポートも施していきます。

⑥メンタルサポート

実践で最高のパフォーマンスを繰り広げるための、強い精神力を養うサポートを行います。また成長を促進するメンタルサポートを、プライバシーが保護された環境下で提供します。

⑦メディカルサポート

アスリートに係るメディカルサポート情報を共有し、本学診療所および連携医療機関での迅速かつ適切な怪我の対応を行います。

キャリアサポート

トップアスリートとしてのアスリートライフ(パフォーマンスやトレーニング)に必要な環境を確保しながら、現役引退後のキャリアに必要な教育やプログラムを提供します。セミナーや直接指導を通じて選手のキャリアの多様性を提示し、選手活動の環境構築を支援します。

アカデミックサポート

柔軟性のある学習プログラムを提供し、アスリートが学内・外で無理なく学習できる環境を整備します。単位習得に係るサポート、レポート・資料作成の支援、ビジネススキルやツールの教示などを施し、キャリアサポートにもつながる教員免許などの資格取得の支援も行います。

ライフスキルサポート

有効に時間を使うためのタイムマネジメントや問題を解決するためのスキルを身につけるレクチャーなど、アスリート自身の生活全般を充実させる啓発を行います。コミュニケーションスキルなど、良好な人間関係を構築する技術の提供も行います。

ハイパフォーマンスサポート

①測定評価

フィットネスチェックとメディカルチェックをベースとし、そこに専門種目に特化した測定結果を加えて、アスリートの状態や潜在能力を評価します

②パフォーマンス分析&情報戦略

指導者および研究者によるチームを編成。コーチの視点・経験と、動画・画像解析など科学的な分析データ・知見を総合して、効率的なトレーニング方法を立案します。

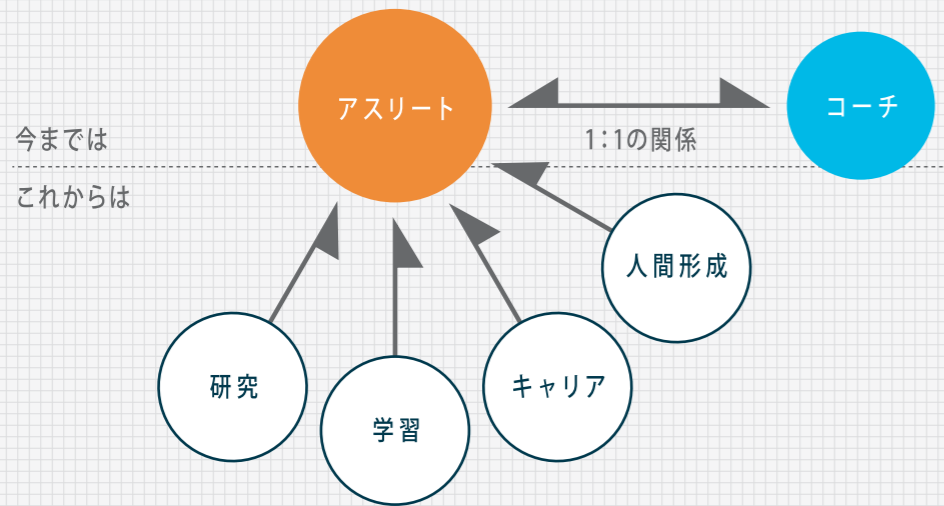
③ストレngths&コンディショニング

競技別のストレngthsトレーニングと、アスリート自身および指導者が動作や測定値を視認できる即時フィードバック方式のトレーニングシステムを構築します。

プロジェクトのねらいと構成

競技力に優れたアスリートが、人間的にも優れた人材であるとは限りません。DASHでは選手の育成を一人のコーチだけに委ねるのではなく、大学という教育機関の強みを活かしながら包括的に人格形成をサポートすることで、社会に貢献できるバランスのとれた人間へと成長させる理想を具現化していきます。

■DASHの概念



大学の経営・教育資源を活用し、アスリートを包括的にサポート
その活動を通じ、選手の育成・強化に参画する人材の教育・輩出もめざす。

■主なサポートの内容

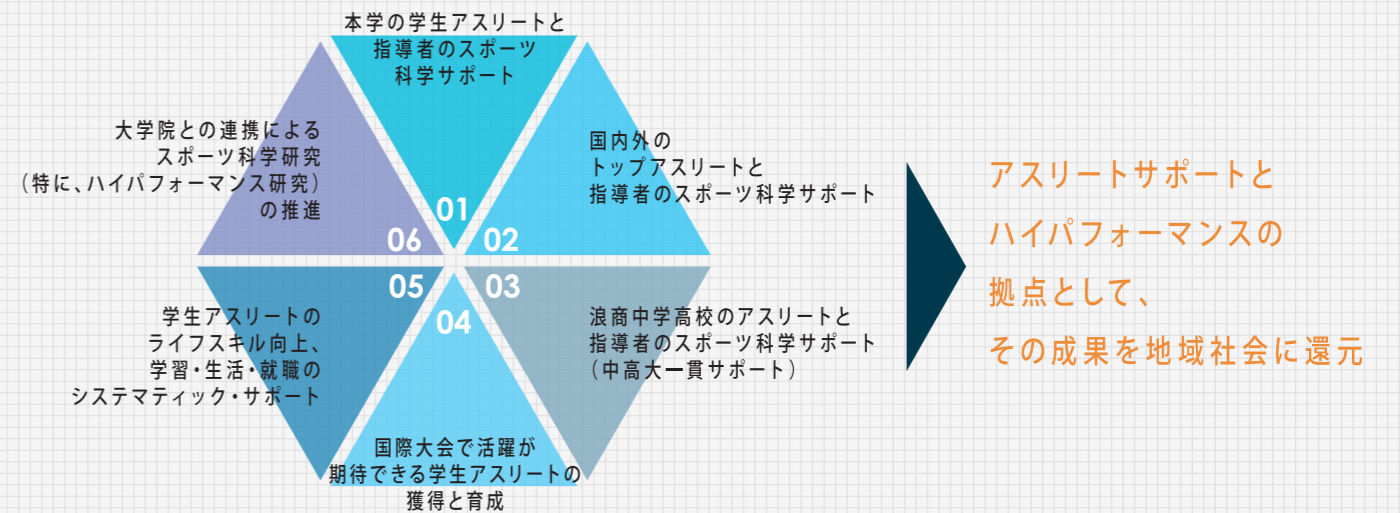
- 学費などの奨学金
- 競技活動経費などの補助
- スポーツ科学センターの教員・職員による競技力サポート。
- 学習支援、キャリア開発などの教育・就業の支援。
- 他、競技活動と学生生活の両立をめざした全学的な支援。



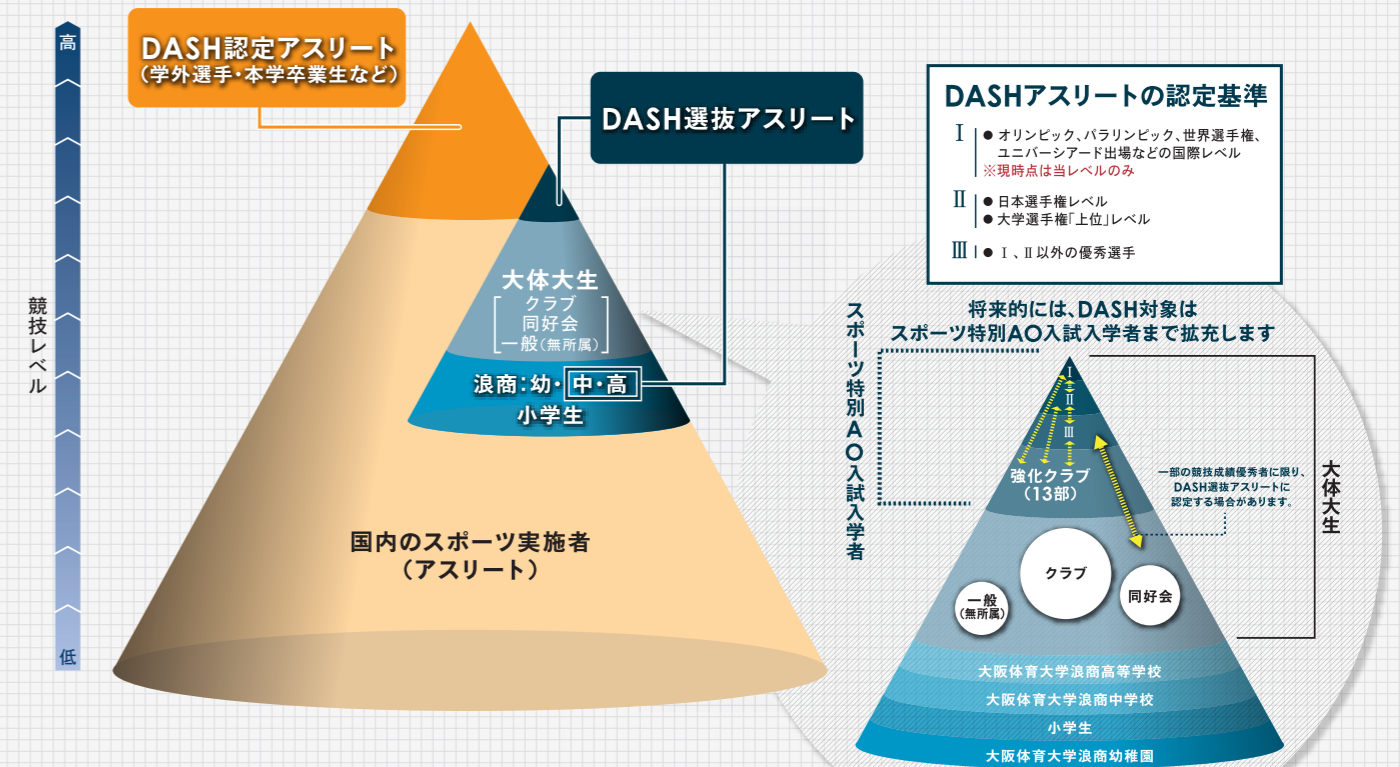
具体的な取り組みと展望

プロジェクトのスタート当初は、本学および本学大学院生（DASH選抜アスリート）、浪商学園・本学卒業生・その他学外の有力アスリート（DASH認定アスリート）を対象として選出し、総合的なサポートを提供。本学の研究ノウハウや最新設備を提供し、世界の強豪と競い合うための高い能力を培うことを目的とします。将来的には、その取り組みにおいて蓄積されるデータやノウハウを、本学学生全体はもとより、国内のトップアスリートやあらゆるレベルのスポーツ実施者に還元していく壮大な計画です。

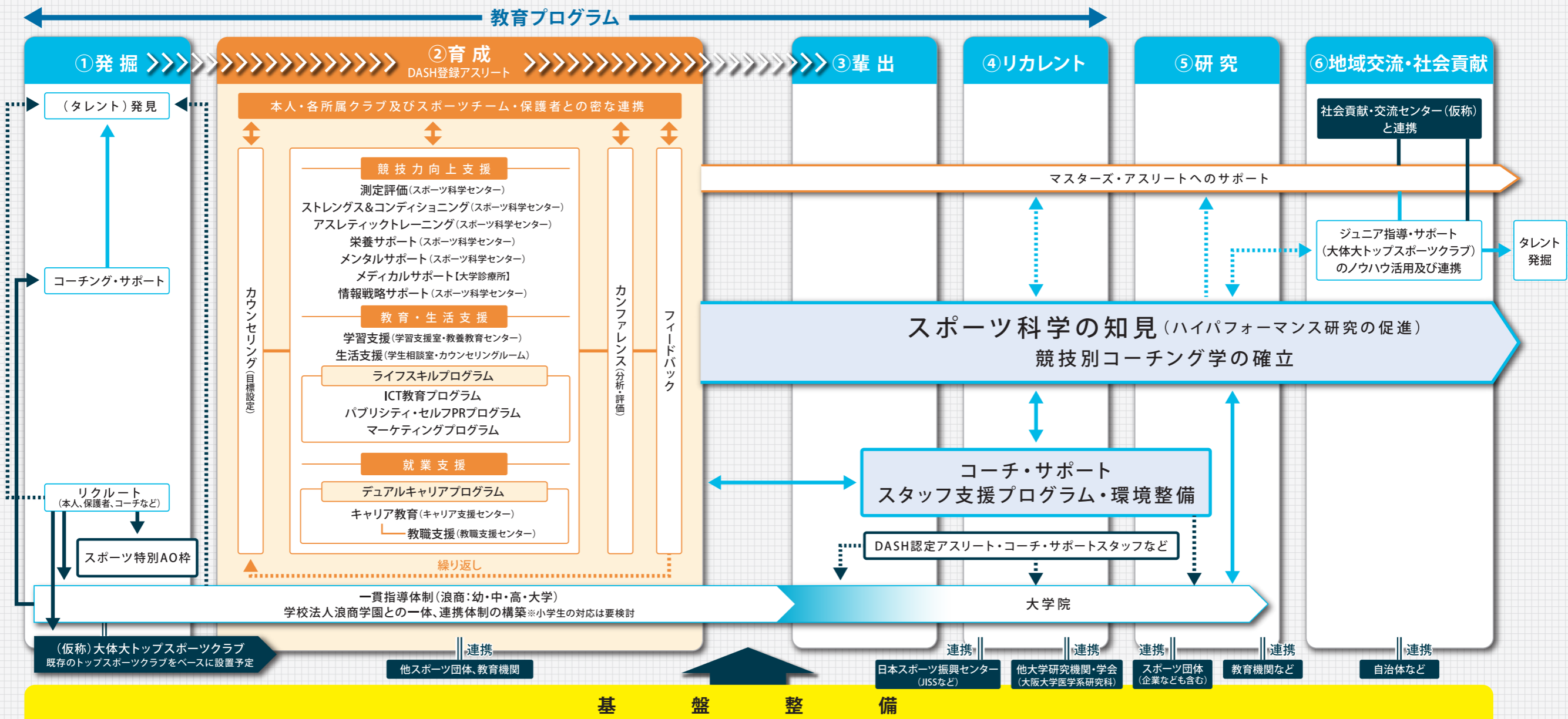
■「大体大DASH」プロジェクト 具体的な取り組みと展望



■DASHプロジェクトの今後の対象



DASHプロジェクトの概観



ヒト

雇用制度の見直し
採用 — 業務貢献区分(スポーツ指導、授業、研究、社会貢献) — 評価

学内の有機的で柔軟な人材の登用

大学院及び大学院生の有効活用
(雇用及び学内インターンシップの導入)

外部協力人員、組織の把握と体制化
(ex.DASH認定コーチ・トレーナー等での登用)

JISS、他機関からの人材受入、研修制度の導入

モノ

学内施設・設備・機器の可視化と一元化理

学内施設・設備・機器の共用
(協働プロジェクトの促進)

学内施設・設備・機器の有効活用
(外部利用促進による大学PR)

カネ

助成・協賛金・研究費の申請・獲得及び体制構築

施設及びプログラムの受益者負担の徹底

サッカーくじ等の助成金(事業費・広報費)活用のための別公益法人(一般社団法人等)の創設とその活用(現附置施設/センターなどの財源確保)

ノウハウ

アスリートデータベース(DB)構築。
個人DBの確立
学内情報学内他DBとの接続・同調

イントラネットの強化充実

人的ノウハウの共有
(経験の可視化と学内交流の促進)

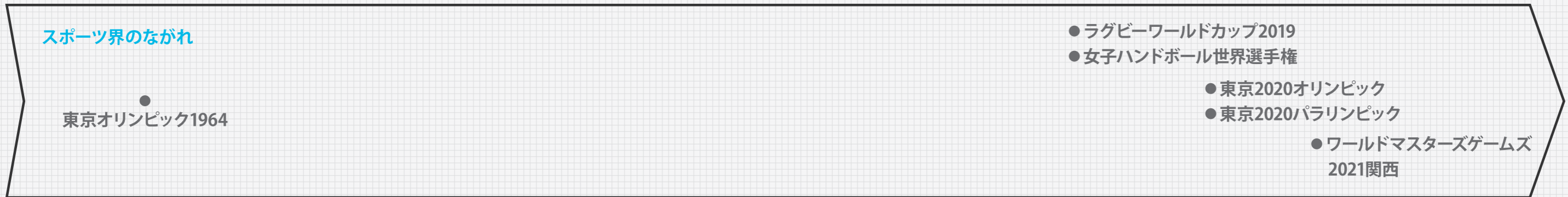
学内情報(イベント、大会等)の一元管理と
戦略的な広報体制の構築

業務の効率化と重複化、縦割りの解消

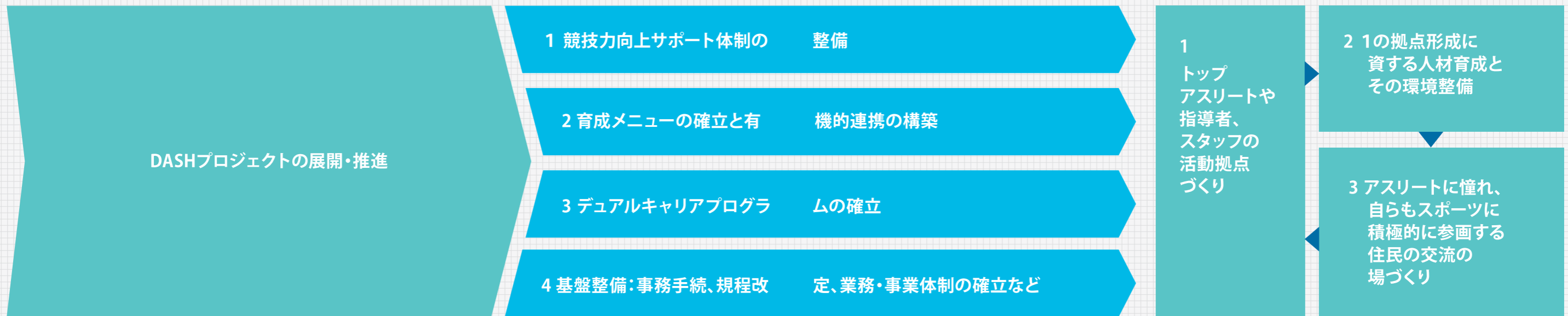
(専門性を生かしながら水平統合を図る)

プロジェクトは、6つの施策(①発掘、②育成、③輩出、④リカレント、⑤研究、⑥地域交流・社会貢献)とその基盤整備の7つで構成

(): 大学組織
[]: 法人組織



1 基盤準備期 → 2 展開期 → 3 成長期



DASH選抜アスリート



柔道女子 **山本 沙羅**

指導者名 **松田 基子** 准教授
柔道部 女子監督

生年月日: 1995年1月11日
出身: 和歌山県
経歴: 県立和歌山商業高等学校 → 大阪体育大学(体育学部4年生)

2016年度の活動のふりかえり

女子柔道78kg超級の山本選手は、2015年、スイスオープン、チューリゲン国際大会などで、優勝を重ね、第28回ユニバーシアード競技大会(2015)では個人無差別級で3位、団体は優勝を飾るなど国際大会で顕著な活躍を見せた。また国内大会でも、第30回皇后盃全日本女子柔道選手権大会3位、平成27年度全日本学生柔道体重別選手権大会でも78kg超級で優勝するなど、好成績を収めていた。

最終学年となる2016年度は、重量級で通用するための、さらなるパフォーマンス向上のための筋力アップと体重増量を目指し取り組んだ。

筋力アップは、他の女子柔道部員と一緒に本学の三島隆章准教授(専門:運動生理学・発育発達学)のもとトレーニングに励んだ。

体重増量は、本学のDASHプロジェクトの担当管理栄養士の指導のもと、「食事摂取量の確保と増量」を目的に、「①学内食堂での昼食定食の提供」「②運動前後の補食提供(約500kcal分)」を、2016年5月～2017年2月の間に行い、きちんとした栄養摂取と補食や提供体制を整備した。

2016年度戦績

- 2016年5月15日 第24回 関西学生女子柔道優勝大会 女子5人制準優勝
- 2016年6月25日～6月26日 全日本学生柔道優勝大会(男子65回 女子25回) 女子5人制ベスト8
- 2016年9月4日 第35回 関西学生柔道体重別選手権大会 78kg超級優勝/4連覇
- 2016年10月1日～10月2日 全日本学生柔道体重別選手権大会(男子35回 女子32回) 78kg超級3位
- 2016年11月12日～13日 講道館杯全日本柔道体重別選手権大会(女子) 78kg超級3位
- 2017年3月5日 第27回近畿女子柔道選手権大会 準優勝
- 2017年度戦績
- 2017年4月1日～2日 全日本選抜柔道体重別選手権大会 78kg超級3位
- 2017年4月16日 第32回皇后盃全日本女子選手権大会 ベスト8



水上競技女子 **大西 迪瑠**

指導者名 **川島 康弘** 准教授
体力トレーニング、コーチング・競泳、水上競技部部長

生年月日: 1996年7月9日
出身: 香川県
経歴: 香川西高等学校 → 大阪体育大学(体育学部2年生)

体力面向上を目的に、筋力トレーニングを重視した。トレーニングの指導は、スポーツ科学センターの安田昌玄ストレングス&コンディショニング(S&C)ディレクターが担当。上半身の筋力向上が功を奏し、短い距離の最大スピードは高まってきた。なお、特段目立つような疾病や傷害、慢性痛もない。本年度後半から、ターンの改善とストローク数をおさえるためのスキル面の向上に取り組んでいる。戦術面は、200mでは、前半の効率的な泳ぎを意識し、400mは後半200mに力を集中するよう意識をしている。心理面は、自身で集中し、自然体に試合に臨んでいる。栄養面は、DASHプロジェクト担当の管理栄養士のアドバイスをうけ、毎食の食事

は同居する実母が調理している。学生生活は充実しており、二年時後半から勉学にも集中、学習成績の向上もみられている。関西学生春季短水路公認記録会200m個人メドレーで、2分12秒68(日本選手権出場権及びジャパンオープン出場権を獲得、自己ベストを1秒更新。)を記録したが、世界選手権、ユニバーシアード出場まではまだ遠い。400mの記録が停滞しているため、400mであればランキングを狙える位置にいる。2017年度は、長水路で4分45秒を記録するのが目標(43秒が日本選手権の決勝ライン)。

2016年4月4日～4月10日 第92回日本選手権水泳競技大会

女子 個人メドレー 200m 2分19秒39
女子 個人メドレー 400m 4分54秒62

2016年4月4日～4月10日 第92回日本選手権水泳競技大会

女子 個人メドレー 200m 2分19秒39
女子 個人メドレー 400m 4分54秒62

2016年5月20日～5月22日 ジャパンオープン2016(50m)

女子 個人メドレー 200m 2分19秒07
女子 個人メドレー 400m 4分54秒06

2016年9月2日～9月4日 第92回日本学生選手権水泳競技大会

女子 個人メドレー 200m 2分18秒70
女子 個人メドレー 400m B決勝 1位 4分49秒24

2016年9月9日～9月11日 第71回国民体育大会水泳競技大会

女子 個人メドレー 200m 2分19秒42

■2017年度戦績

2017年4月15日～4月16日 学関西:第24回関西学生春季短水路記録会

チャレンジ 女子 200m 優勝 2分12秒07
女子 100m 平泳ぎ 2位 2分14秒06

2016年12月11日 第11回日本ろう者水泳選手権大会

200m 背泳ぎ 優勝 2分02秒02/大会新記録
100m 背泳ぎ 優勝 57秒84
50m 自由形 優勝 24秒68
200mメドレーリレー 第一泳者 優勝 26秒44
200mフリーリレー 優勝 25秒06

2016年7月30日～31日 第67回佐賀県選手権水泳競技大会

50m背泳ぎ 優勝 27秒52
100m背泳ぎ 優勝 58秒22

2016年7月17日～18日 2016ジャパンパラ水泳競技大会

50m自由形 2位 24秒35/日本新記録
100m自由形 優勝 54秒18/日本新記録
100m背泳ぎ 優勝 59秒2/大会新記録
200m個人メドレー 優勝 2分12秒57/大会新記録



水上競技男子 **金持 義和**

指導者名 **尾関 一将** 准教授
コーチング・競泳、スポーツバイオメカニクス、男子水上競技部監督

生年月日: 1995年1月11日
出身: 和歌山県
経歴: 県立和歌山商業高等学校 → 大阪体育大学(体育学部4年生)

「食事に関する自己管理能力の向上」と「増量」を目的に、DASHプロジェクト担当の管理栄養士によって2016年4月から7月までの約3ヶ月間、週1回1時間の個別指導、メールによる食事のアドバイスが行われた。アスリートとして自立した栄養管理をすることを目指し、「親子で学ぶスポーツ栄養」を基に食事と栄養についての知識を学んだ。その知識を基に、アスリートとしての食事が摂れているかを確認するために定期的に食べた食事を確認し、その都度、改善点をアドバイスした結果、普段の食事をどのように摂ればよいか考えて行動できるようになっていった。

金持選手の最も重要な目標は2017年に行われるデフリンピックでの3種目優勝である。そのために2016年は目標を達成するためにスピード向上を目的にした厳しい練習に取り組んでおり、新しい挑戦として健常者における日本のトップ選手が所属するチームで練習をすることで、様々な刺激を受け、常に競技力向上を目指している。

対象アスリートの動向とサポート内容



DASH認定アスリート
プロ野球 **村田 透** 選手

生年月日：1985年5月20日
出身：大阪府
経歴：大阪体育大学浪商高等学校→大阪体育大学
→読売巨人軍(2008～10)
→MLBクリーブランド・インディアンズ(マイナー、2011～16)
→北海道日本ハムファイターズ(2017～)

大阪体育大学ならびに併設校である大阪体育大学浪商高等学校の野球部出身の現役プロ野球選手。村田選手の地元が本学所在地の大阪府泉南郡熊取町ということもあり、2016年度オフシーズンの今冬の約1ヶ月間、本学キャンパスでのトレーニング環境を提供した。

村田選手の希望もあり、野球場ならびに2016年に新設された開学50周年記念館Strength& Conditioning Roomを使用したトレーニング環境を提供した。加えて、村田選手の高校・大学の後輩でもあり、本学大学院スポーツ科学研究科博士前期課程在籍中の大学院生がトレーニングパートナーとして、期間中のキャッチボールや各種ランニングプログラム、トレーニングに帯同し、トレーニングを一緒に行いながら、その補助や使用器具のセッティングを行い、同選手への人的なサポートをした。頻度は、週4回、1回約4時間程度であった。同選手からはオフシーズンの短期間にキャッチボールを含めて、単身ではできないトレーニングメニューや学内施設をスムーズに利用するための帯同者の確保は評価が高かった。

なお、同選手は、他の本学OBの現役プロ野球選手と共に、2016年12月25日(日)に、大阪体育大学硬式野球部OB会主催の野球教室で、講師として、地元や周辺地域の軟式野球チームの小中学生選手を対象に、トレーニング指導も行った。



DASH認定アスリート
陸上競技 **山本 篤** 選手

生年月日：1982年4月19日
出身：静岡県
経歴：県立掛川西高等学校
→大阪体育大学
→スズキ浜松アスリートクラブ
(大学院博士後期課程12期生)

大阪体育大学出身の陸上競技選手。本学在学時から一貫して本学を練習環境として、本学学生ならびに、併設校の大阪体育大学浪商中・高の陸上競技部の選手たちと同じフィールドでトレーニングを行っている。

2016年はリオデジャネイロ・パラリンピック陸上男子幅跳びで銀メダル、アンカーを務めた男子400mリレーで、銅メダルを獲得するなど、3大会連続パラリンピックに出場した陸上競技のみならず、スノーボードにも挑戦する日本を代表するパラリンピアンである。

本学では、山本選手の要望に応じ、学内施設や設備の利用を通じたトレーニング環境の提供を行っており、今後も同選手の要望などを伺いながら、全面的な競技活動の支援に取り組んでいる。

そのおかげもあり、2017年1月17日には、文部科学大臣から山本選手への「競技力向上のための研究とトレーニング活動のための施設を提供」という事由で、「リオオリンピック・パラリンピックでのスポーツ功労団体」を受賞するという栄誉も得た。

あわせて、2016年度、山本選手は、関西運動記者クラブが選ぶ第60回関西スポーツ賞を同選手自身も受賞するなど、活躍が華々しい。

山本選手は、在学中より、自らの陸上競技の成績向上にスポーツバイオメカニクスの見地を活かすべく、トレーニングと競技研究の両立をし、記録更新を続けてきており、本学は2017年4月1日付で、山本選手を大阪体育大学客員准教授に任命、在校生への特別講演など、本学の教育・研究、スポーツ活動の発展に関わる活動への参画を依頼した。

本学としては、東京2020へむけたさらなる活躍を祈念し、引き続き、良好な環境を提供したい。

■2016年度戦績

2016年4月30日～5月1日 日本パラ陸上競技選手権

男子走幅跳 優勝 6m56【世界新記録】
男子100m 優勝 13秒01

2016年5月3日 第32回静岡国際陸上競技大会

男子パラ100m 優勝 12秒94

2016年5月18日～19日 2016IPCグランプリ リオデジャネイロ大会

男子走幅跳 2位 6m30【銀メダル】
男子100m 8位 12秒93
男子200m 6位 26秒53

2016年6月4日、5日 2016ジャパンパラ陸上競技大会

男子100m 優勝 12秒67
男子走幅跳 優勝 6m49

2016年7月2日～3日 関東パラ陸上競技選手権大会

男子100m 優勝 12秒86【大会新】
男子200m 優勝 26秒40【大会新】

2016年7月16日 IPCグランプリ ベルリンオープン

男子100m 優勝 12秒99
男子走幅跳 優勝 6m25

2016年7月23日 IPCグランプリファイナル

男子走幅跳 2位 6m62【日本新、自己新】

2016年9月8日～9月18日 リオ2016パラリンピック競技大会

男子走幅跳 2位 6m62【アジア記録タイ】
男子4×100mリレー 3位 44秒16【日本新】
男子100m 7位 12秒84

2017年3月20日～3月22日 Dubai 2017 World Para Athletics Grand Prix

走幅跳 2位 6m11
100m 3位 13秒25
200m 4位 27秒46

2017年4月29日 第51回織田幹雄記念国際陸上競技大会

パラ男子100m(T42クラス) 優勝 12秒88

2017年5月3日 第33回静岡国際陸上競技大会

パラ男子100m(T42クラス) 優勝 13秒28

陸上トップアスリートの身体機能の解明と トップアスリートサポート・育成プロジェクト

メンバー

大阪体育大学：石川 昌紀、栗山 佳也、貴嶋 孝太、佐野 加奈絵、牧野 晃宗、Paavo Komi（本学客員教授）、
伊藤 章（本学名誉教授）
大阪体育大学浪商高等学校：九鬼 正一、江畑 憲一、横田和行

■目的

バイオメカニクス・トレーニング科学・神経生理学の学際的な研究から、身体運動能力の可能性と限界の調査、トレーニングシステムの構築を目指し、陸上競技を始めとする国内外のジュニアからトップアスリートがトレーニングや測定評価として活用できるパフォーマンス研究・サポート拠点センターとしての機能強化を目的としている。具体的には、動作の即時フィードバックが可能なランニング評価システムや、それを利用したトレーニングで競技力向上のサポートや選手や指導者育成活動に取り組んでいる。一般的な生理代謝機能の測定だけでなく、走効率を高める動作指導をハイスピードカメラを用いたフィードバックや、走行中のキック力や衝撃力のフィードバック、身体の骨格や筋腱の形態評価やアライメントのコンディショニングを通じた統括的な測定評価システムの構築し発展させている。これらの活動を通じ、競技やスポーツ活動の現場で活躍できるスポーツ科学博士の養成、トップレベルから下位レベル選手やジュニアレベル選手など包括的なデータ収集、測定評価による即時フィードバックと課題提言などトレーニング・コンディショニングの統括的サポート、指導者・選手サイドへの最新スポーツ科学エビデンスの提供・更新を行っている。

■役割分担等

本プロジェクトは、選手のリクルート、選手のソーシャル・サポート、測定評価、トレーニング指導、研究それぞれの担当者を置き、本学の学部生・大学院生と共にプロジェクトを実施している。また併設校の大阪体育大学浪商高等学校生も、サポート・指導対象にもなっており、同校の担当教員とも連携・協力してジュニアからシニアまでの一貫した指導事業を遂行している。

統括：石川昌紀

選手のリクルート：栗山佳也、貴嶋孝太、九鬼正一

選手のソーシャル・サポート：貴嶋孝太、江畑憲一、横田和行

測定評価・トレーニング指導：貴嶋孝太、国正陽子、牧野晃宗

研究：佐野加奈絵、Paavo KOMI客員教授、伊藤章名誉教授

海外・学外に対する渉外：貴嶋孝太、国正陽子

■実績

2013年度から実施している本プロジェクトでは、これまで陸上競技の長距離選手を中心に、国内・外のハイレベルのシニア・ジュニアアスリート、指導者33団体・260名を対象に測定、サポート、情報提供活動を展開してきた。これらの活動を通じ、以下のような選手へのサポートならびに研究成果、社会貢献などに取り組んできている。

■測定・サポートのチーム・選手実績

- 第15回世界陸上・第7回世界パラ陸上競技大会、国内・外出場の選手・コーチ5名
- リオオリ・パラ 陸上競技国内・外出場選手・コーチ7名
- 2015年度日本選手権出場選手29名
- 2016年度日本選手権出場選手18名
- 測定・サポートの大学・高校陸上競技部 4大学、7高校（陸上駅伝競走：近畿大会出場3校、うち1校、全国高校女子駅伝優勝）
- 受託契約実業団チーム9チーム 測定回数122回(2015-2016年度)
- 浪商学園浪商高等学校、高大連携高校（大塚高等学校）のサポート（中高大連携サポート）
- 坂野七海選手：大阪選手権2位、ジュニアオリンピック2位、全中2位
- 女子陸上駅伝競走の7年ぶりの近畿大会出場
- 競泳モノフィン50m女子選手 日本新記録樹立2015年、2016年

■主な研究成果：2014—2016年

14本の国際・国内原著論文、19本の国際・国内招待講演、35本の学会研究発表、6本の国内・外の学術賞の受賞（大学院生を含む）。

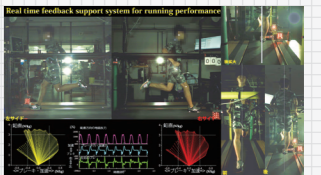
■社会貢献・連携など

- 国立スポーツ科学センター（JISS）での教育講演、競技復帰選手の測定・評価の受け入れ
- 新聞・テレビなどのメディアでの取材
- 国際研究者セミナー、高大連携、出前授業、体験授業、公開講座開催などの社会貢献30件以上
- 日本私立学校振興共済事業団学術研究振興資金、日本学術振興会、各企業受託事業10件
- 5本の国際・国内受託共同研究、その関連会社への学部生の就職など

■課題や展望

本プロジェクトにおける課題や展望は、以下のとおり。

- トップレベルから下位レベル選手・発育発達レベルなどを考慮した包括的なデータ収集、測定評価による即時フィードバックが可能な本プロジェクトのシステムは、指導者の指導力や競技選手のモチベーションを高めるだけでなく、選手のパフォーマンスを客観的に評価し、選手自身の自律的なトレーニング実施も促すことが可能である。
- 2017年度から、混成競技代表選手サポートなど他競技種目にも応用していき、最先端の研究知見を活かした選手育成・サポートの研究拠点を旨とする。本プロジェクトは、国際共同研究加速基金、二国間国際交流研究事業、学術研究振興資金や科研費など、本学予算に加え、複数の財源を確保して実施展開しており、引き続き、外部資金も獲得し、世界トップクラスの測定・評価フィードバックシステムを維持・構築をめざす。
- しかしながら、拠点である本学バイオメカニクス実験室は研究・教育との共同施設として活用し空き状況に合わせた設備利用で稼働限界に達している点、他の体育・スポーツ科学系大学の施設と比べ施設が非常に狭く、動作測定環境が十分とはいえない点、担当教員への負担増、測定・サポートスタッフ不足、サポート対象者の増加に伴う利用選手の選別方法の検討などが、今後の検討課題となっている。
- 各競技団体、国立スポーツ科学センター（JISS）への講師派遣・測定協力、共同研究や研究知見の情報提供など、さらなる他機関との連携強化が求められる。
- 産学連携による測定機器開発や学術研究論文による公表の促進に取り組みに加え、独自の測定システムやトレーニング方法の開発、即時フィードバックシステムのさらなる充実をめざす上でも、技術者や支援者の雇用などが求められる。



牧野研究員が日本体育学会第66回大会「若手研究奨励賞最優秀賞」を受賞



平成27年度大阪体育学会奨励賞受賞



大塚高等学校陸上部が来学し、頭と体のトレーニング合宿



カヌーメダリストの羽根田卓也をトレーニング指導しているVajda先生が来学し、トレーニングシステムについて学生達とディスカッション



発育・発達に関する神経・筋適応に関する国際セミナー開催（University of Blaise PascalのMartin博士）

体操競技におけるパフォーマンスの客観的評価及び即時フィードバックシステムの構築

メンバー

大阪体育大学:藤原 敏行、三島 隆章
浪商学園トップスポーツクラブ:小林 隆

■ 目的

主観を大事にする日本の体操競技界における研究や実践の現場に、映像分析や各種力学的測定から得られるような客観的情報を、即時かつ視覚的に理解しやすい形で提供することで、自らのパフォーマンスやその変化をより正確に捉え、競技実践とコーチングのレベル向上を目指す。加えて、実践現場における日常的、継続的な測定が可能なシステムを構築することで、より現場に活かせるスポーツ科学研究の発展を目指す。

■ 概要

- 体操競技における各種目およびトランポリンなど重要な練習器具において、3次元的な運動をより正確に把握するために、同期された複数台カメラの映像を1画面に合成した映像フィードバックシステムを構築する。また、それらの映像は3次元動作分析が可能な映像として、記録できるようにする。
- 選手のトレーニング活動への干渉を限りなく少なくしながら、パフォーマンスデータを測定できる機器、そして即時フィードバックできるシステム(アプリケーション)の開発に取り組む。力や重心位置など、通常は視覚的に確認できないが運動技術分析に重要な項目を、フィードバック用の映像に合成表示することを視野に入れてシステムの構築を目指す。
- そのようなシステムを普段のトレーニングから使用することで、日常的かつ継続的に客観的データを獲得し、主観と客観の比較・一致を通じて、より正確な自己のパフォーマンスとその変化の理解を促す。
- さらに、本学体操競技部と同じ施設環境で協働する浪商学園トップスポーツクラブからの一貫指導体制の中で、選手の自発的・能動的トレーニング意識の醸成と、競技力向上を目指し、縦断的研究の資料とする。
- これらの取り組みは、本学のDASHプロジェクトやスポーツ科学センターの各種取り組みとも連動し、本学における競技力向上とコーチング力充実の方向に沿うものである。また現場における現場のためのスポーツ科学理論の応用実践として、競技力向上、科学研究推進に加えて、体育学・スポーツ科学を学ぶ本学学生の教育に深く関わるものである。

■ 役割分担等

藤原敏行:全体統括、体操競技の技術及びパフォーマンスの可視化の監修

小林隆:体操競技の技術及びパフォーマンスに係る助言及び本システムを用いた指導法の確立

三島隆章:映像と加速度計を用いたフィードバックの指標及び可視化に係る助言

ソフトウェア開発企業:本システムのアプリケーションの開発



■ 期待できる成果

本学の中期計画における「体育学・スポーツ科学・教育学を関連させた研究領域の開発」や「国内外トップアスリートへの測定・トレーニング等のサポート事業の充実」と関連し、スポーツ現場における競技力向上に資する科学的フィードバック環境の実現や、選手自身のパフォーマンスに対する客観的な理解の促進、さらにはそれらを通じたコーチング科学の確立をめざし、アスリートへの新たなトレーニング環境の構築と提供をねらっている。

■ 2016年度成果

本年度は、日常的に競技トレーニングが行なわれている本学体操場で、「あん馬」と「つり輪」の2種目におけるトレーニングおよびパフォーマンスの可視化と即時フィードバックシステムの開発・導入に着手した。

「あん馬」システムは、深度センサーが装備されたマイクロソフト社製「Kinect for Windows v2」を利用して、同種目のパフォーマンスを評価する1つの指標としての「雄大性」を測定できる独自システムを開発した。具体的には、Kinectをあん馬上部に設置し、選手の試技中の旋回時の「頭頂」と「爪先」位置を自動認識することで、先行研究の知見に基づいてパフォーマンスを得点化し、自動評価できるようにした。これにより、あん馬の試技終了後すみやかに雄大性に関する客観的評価をフィードバックできるようになった。このシステムは、従来のバイオメカニクスの測定に必要であった複雑で大掛かりなセッティング(複数台のカメラなど)を必要とせず、日常的にトレーニングが行なわれている環境での測定が可能であり、さらに反射マーカークの貼付や服装の制限などの負担を選手に与えることもないため、まさしく日常練習中のパフォーマンスをそのまま測定、データ化し、即時フィードバックできる点が画期的である。しかしながら、Kinectの性能に依存する制限や自動認識アルゴリズムの影響で、「頭頂」や「爪先」ではない点を誤認識してしまうケースがあることや、日常的な使用に耐えうるコンピューターの設置方法と操作システムの改善が必要であることなど、課題も浮かび上がった。2017年度は引き続き、このあたりの課題をクリアにするとともに、より実用的な評価方法の考案と、その妥当性の立証などがプロジェクトの命題となる。

「つり輪」システムは、力静止技練習時の見ための静止状況と選手の力発揮状況をより客観的に捉えられるよう、つり輪の2本のケーブル上部にそれぞれ力センサーを設置した。それらのセンサーから測定できる左右の荷重情報を無線で受信・即時計算し、ビデオ映像と同期された力データが体重に対するパーセンテージでリアルタイムに数値、グラフ表示される独自システムを開発した。力静止技は補助者をつけてトレーニングを行うことが一般的であり、これまで主観的・感覚的な評価でしか、選手のトレーニング状況を評価できなかった。このシステムによって、補助者がどれほど補助をしているのかが客観的・定量的に評価でき、選手のトレーニングの実施、進捗状況をより正確に把握できるようになった。フィードバックはリアルタイム表示だけでなく、iPadのコーチング系映像アプリなどに見られる機能である、画面スワイプでの遅延再生に対応しており、より現場での使用にあったプログラムとなっている。しかしながら「あん馬」システム同様、日常的な使用に耐えうるコンピューターの設置方法と操作システムの改善は大きな課題であり、2017年度に、システム完成にむけた改善策を講じることが求められた。

競技力向上に向けた日常的な測定、利用にはまだ課題は残るものの、実験室ではなく選手がトレーニングを行う現場に、測定機器が導入・配備され、自らのパフォーマンスの客観的評価が即時フィードバックされるとともにデータ測定がなされる環境構築に一步踏み出したことは、客観的評価を活かした選手自らのパフォーマンス分析や、改善意欲を誘発するきっかけとなっており非常に大きな成果であったといえる。

2017年度はこの2種目におけるシステムの実用性の向上に最優先に取り組みながら、他種目におけるシステム開発にも踏み出したいと考えている。



ハイパフォーマンスを実現するアスリートサポート拠点形成事業

メンバー
大阪体育大学：梅林 薫、藤井 均、石川 昌紀、下河内 洋平、三島 隆章、足立 哲司、友金 明香（スポーツ科学センター）

■目的

本学は、「大体大ビジョン2024」においてDASH(Daitaidai Athlete Support & High Performance)の設置を決定し、アスリートをサポートしていく方向性を示した。パフォーマンスを把握する上で、運動生理学的側面からの分析は大変重要なものであり、この分野の測定を本学の選抜されたアスリートを中心に行いながら、その成果を公表していくものとする。

■概要

平成27～30年度大阪体育大学中期計画においては、アスリートサポートセンターを立ち上げ(DASHに変更)、アスリートに対してのスポーツ医・科学的サポートを充実させ、競技力向上を担っていくことが謳われている。本プロジェクトは、パフォーマンスを測定・評価する上で、現在の総合実験室をリニューアルし、アスリートに対して基礎体力および専門的体力を把握し、その結果により得られたデータを基に、効率的、かつ合理的な体力トレーニングへと結びつけていくことを視野にいれた事業である。そして成果についても、国内機関(JISSや大阪大学など)とも連携をしながら情報交換を積極的に行っていく。大阪体育大学中期計画においても推進するスポーツ医・科学サポート事業の更なる発展、ならびに本学アスリートの将来的な競技力向上に寄与するものと考えている。

■役割分担等

この事業を推進していく上で、本学の教員が測定等の企画を行い、スポーツ科学センター内の研究員および運動生理学を専門とする大学院生等の協力を得ながら測定を行い、分析・評価していく。の役割は下記のとおりである。

全体統括(企画・運営等)：梅林 薫
有酸素能力の測定・評価：足立哲司、友金 明香
身体組成の測定・評価：藤井 均
神経筋バイオメカニクスの測定・評価：石川昌紀
専門種目におけるフィールドおよびラボ測定・評価：三島隆章
パワー・筋力測定・評価：下河内 洋平

■期待できる成果

今回のプロジェクトの実施により、大きくは、本学および本学に關与するアスリートの競技力向上に大いに貢献できる。また、以下の点についても効果が期待できる。

- 本学スポーツ科学センター(改組)におけるスポーツ医科学的サポートの充実
- 本学および国内外のトップアスリートのパフォーマンスをチェックし、トレーニング指導に大きく貢献できる。
- 他大学、研究機関との連携により、さらにスポーツ医科学分野の発展に寄与する
- 本学教員、研究員、大学院生等の研究の推進をめざす。

以上

■2016年度の主な取り組み

① 日体大アスリートサポートシステム(Nittaidai Athlete Support System:NASS)についてのヒアリングの実施

実施日：2016年7月29日

日本体育大学が、2020年開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて掲げた目標「70名の本学の学生及び卒業生をオリンピック・パラリンピアンとして輩出」を達成するためのオール日体大体制による学生支援システムについてヒアリングを行った。

② 国立スポーツ科学との連携会議の実施

実施日：2016年9月15日

独立行政法人日本スポーツ振興センター(JSC)と学校法人浪商学園大阪体育大学との包括連携協定にもとづき、スポーツ医・科学研究の中核機関として、充実した最新施設、器具・機材を活用し、各分野の研究者、医師等の専門家集団が連携しあって我が国の国際競技力向上を支援しているJSCの機関である国立スポーツ科学センター(JISS)と本学との連携事業を積極的に推進するために、DASHプロジェクト担当スタッフならびに本学スポーツ科学センターの教職員で、合同ミーティングを行い、今後の連携策や体制について討議をした。

③ 第13回 JISSスポーツ科学会議に、DASHプロジェクト担当スタッフならびに本学スポーツ科学センターが参加し登壇、ポスター発表(右図)を行った。

実施日：2016年11月29日

シンポジウム①「リオオリンピックまでの4年間のJISS医・科学サポート」では本学のスポーツ科学センター長である梅林薫教授が司会として登壇。その後の国立スポーツ科学センターならび地域のスポーツ医科学研究機関を中心としたポスターセッションでは、梅林教授、魚田及び牧野DASHプロジェクトの担当スタッフらが本学での取り組みを各々紹介した。



大阪体育大学におけるスポーツ医・科学体制について

梅林 薫、前島 悦子、森北 育宏、藤井 均、三島 隆章、菅生 貴之、岡村 浩嗣、石川 昌紀、足立 哲司、曾根 純也、渡邊 有実、木村 彩、浦久保 和哉、大阪体育大学 スポーツ科学センター、学長室 DASH project

背景

- 大阪体育大学は、2015年に理学部を廃止し、18学部に向けた「教育」「教育」「教育」という3つのビジョンを掲げた「大体大ビジョン2024」を打ち出した。
- 「教育」ビジョンでは、学内の学生アスリートだけでなく、学外のアスリートへの数多くの支援も視野に入れ、現在、積極的に対策を講じている。
- 本学スポーツ科学センターは、大阪体育大学スポーツ医・科学サポート体制構築を目的に、2016年4月に設置された「スポーツ科学センター」の改組と統合を遂げる。

スポーツ科学センターの位置づけと役割

- スポーツ科学センターは、学内の各学部・各学科に所属する学生アスリート、および学外のアスリートに対して、科学的サポートを提供している。
- 本学スポーツ科学センターは、学内の各学部・各学科に所属する学生アスリート、および学外のアスリートに対して、科学的サポートを提供している。

サポート内容と体制

- スポーツ科学センター-医科学サポート部は、実務的に7つの部門に分かれ、学内の各学部から学生アスリートを支援している。
- 学内に限らず、選手や関係者から多岐にわたる支援を受けるための学内-外部連携が、本学スポーツ科学センターの重要な役割の一つである。
- 学内連携に加え、学外アスリートとの連携も積極的に行っている。

学外への医科学サポート

- 学内連携をサポートだけでなく、本学では学外のジュニアアスリートおよび中高生を対象とした協力機関や研修センター、トレーニング施設を行っている。

まとめ

- 大阪体育大学スポーツ科学センターでは、ジュニアアスリートから中高生までの幅広い年代に対する機能的な医科学サポートと学内外での支援環境の構築を進めている。
- 今後、日本スポーツ振興センター(国立スポーツ科学センター)や、大阪大学大学院医学研究科などの包括連携協定により更なるスポーツ医科学サポート体制の充実を図りながら、本学だけでなく、本学併設校への支援や学外社会貢献活動の推進を目指している。

第13回JISSスポーツ科学会議 2016.11.29(火)

DASHプロジェクト特別セミナー、イベントなど

DASHプロジェクトの具現化を推進するために、ハイパフォーマンスならびに、スポーツ拠点づくりに資するセミナーや報告会、特別講演会などを次のとおり企画・開催した。

① シンガポールスポーツ科学センターなど視察報告会（先進事例調査、平成27年度大学院海外学術交流事業報告会）

開催日：2016年4月28日（視察期間：2016年3月28日～4月2日）

DASHプロジェクト及び本学大学院の研究の一環として、シンガポールのスポーツ事情についての実地調査と学術交流を目的として実施した。アジアの先端事例として、「Singapore Sports Hub」「Singapore Sports Institute (SSI)」「アルビレックス新潟シンガポール」「Nanyang Technological University」「Singapore Sports School」「Football Association Singapore」を訪問・視察を行った。

② ラグビーセブンズ日本代表ヘッドコーチ瀬川 智広 氏（大阪体育大学平成4年度卒業）特別講演会の開催

開催日：2016年6月3日

タイトル：ラグビーセブンズ日本代表、リオ五輪出場迄の軌跡とそのマネジメント

リオデジャネイロオリンピックで、92年ぶりに五輪競技に復帰したラグビーで、五輪出場を決めたセブンズ日本代表の取り組みと展望を本学OBである瀬川ヘッドコーチから伺った。

③ ガンバ大阪 藤春 廣輝 選手（大阪体育大学平成22年度卒業）のリオオリンピック出場記念壮行会の開催

開催日：2016年7月5日

小中高と全国大会での際立った成績もなく無名選手に等しく「大学4年までサッカー選手になろうとは考えていなかった」という藤春選手のリオデジャネイロオリンピック出場の壮行と、大学、プロ選手と今後の抱負と、母校の後輩へのメッセージ、そして2018年のロシアワールドカップにむけての展望を語ってもらった。

④ スズキ浜松AC 山本篤選手（本学大学院博士後期課程12期生）のリオオリンピック出場記念壮行会の開催

開催日：2016年7月8日

パラリンピック3大会連続出場となる本学OBでありDASH認定アスリートである山本篤（スズキ浜松AC）の壮行を行い、リオデジャネイロオリンピックにむけた意気込み、スポーツ科学にもとづいたトレーニングの重要性を在學生にむけて語ってもらった。

⑤ 体操／トランポリン監督・山本宜史氏（体育学部19期生）、リオデジャネイロオリンピック出場の表敬訪問

開催日：2016年7月21日

リオデジャネイロオリンピック出場するトランポリン監督・山本宜史氏からメダル獲得の意気込みを伺い、学長、理事長からの激励を行った。

⑥ DASHプロジェクト特別セミナー「2020 and Beyond 未来を見据えたインテリジェント・アスリートの育成：日本レスリング協会の取り組み」公益財団法人 日本レスリング協会の情報戦略委員・清水聖志人氏

開催日：2016年7月30日

「発掘・育成システム／育成世代へのコーチング／スポーツ医科学の活用／女性アスリート支援」等をキーワードに、わが国のレスリング界における輝かしい歴史を生み出してきたその背景と日本レスリング協会とアスリート育成の展望を聞いた。

⑦ DASHプロジェクト特別セミナー「エンターテイメントにおけるタレントマネジメント及び活動拠点づくり」シルク・ドゥ・ソレイユ ディレクター クロード・ブルボニエール氏

開催日：2016年10月15日

シルク・ドゥ・ソレイユは、世界中から才能溢れるアーティストやパフォーマー、スタッフを数多く集めるエンターテイメント集団で、オリンピック選手をはじめとするトップアスリートがパフォーマーとして入団して活躍するなど、そのセカンドキャリアの場としても有名で、そのタレントマネジメントやその環境づくりについて学んだ。

⑧ リオ五輪水泳日本代表コーチ竹村吉昭（JSS所沢、昭和52年度卒）来学

開催日：2016年10月28日

今回の日本代表女子ヘッドコーチを含め3度の代表コーチを経験された竹村氏から、日本チームの現状、世界と比較し置かれているポジション、オリンピックを振り返っての反省すべきことなどトップアスリートを指導するコーチとしての立場の話、コーチングの三大効果「相手を育てる」「相手を支援する」「相手を前向きにする」など自身の指導方法について講話をいただいた。また選手個々と向き合うことで、その選手には「何が必要なのか」を見極めることが指導者として重要であるということを学生に詳解いただいた。

⑨ 大阪体育大学OB日本プロ野球トレーナーとストレンクス&コンディショニングコーチによるクリニックを開催（本学卒業生の阪神タイガース チーフトレーナー、中日ドラゴンズコンディショニングコーチらが参加）

開催日：2016年12月17日

日本プロ球界で活躍中の本学卒業生の現役プロ野球トレーナーとストレンクス&コンディショニングコーチ4名を招き、本学学生や教職員、地域で活動する学校やクラブの野球指導者を対象に、プロで培ったノウハウや経験にもとづいたスポーツ現場に資するパフォーマンス向上やケガ防止方法について、実技も交えて講演いただいた。

⑩ DASHプロジェクト・セミナー_アスリートサポート・セミナーJISS尾崎宏樹氏

開催日：2017年1月23日

2009年から国立スポーツ科学センター（JISS）で研究員として勤務、その後2014年から2016年までSingapore Sports Institute (SSI) でサポートスタッフとして勤務された経験から、JISSとSSIでの科学サポートを比較しながら、シンガポールのスポーツの現状について講話いただいた。

⑪ DASH特別セミナー 中原健聡講師「未来を切り開くために必要なこと」(浪商高校生対象)

開催日：2017年2月18日

2011年大阪体育大学卒業、2011年8月にスペインへ渡り、サッカーのトライアウトを受けプロ契約。2012年一時帰国中に行った講演を機に、学校建設を決意。2014年 スペイン1部セルタの練習生となるが契約には至らず、学校建設の計画を進めるために帰国。2017年から北海道の私学の校長補佐に赴任する中原氏から、未来へ挑戦しつづける人生について、大阪体育大学併設校である浪商高等学校の強化クラブの選手にむけて講話をいただいた。

DASHプロジェクト関連施策

DASHプロジェクトの推進と拠点づくりの実現にむけて、以下のような施策にも取り組んだ。

発掘 「ボート競技タレント発掘トライアウト」の開催

開催日：2016年8月5日・6日・27日の計3日間

(公社)日本ボート協会と共同で、2020年東京オリンピックでのメダル獲得をめざし、候補選手を発掘すべく、大阪体育大学を会場として、自転車エルゴメーター(wattbike)を利用したボート競技のタレント発掘トライアウトを開催した。本学の学生のみならず併設校の浪商中高生や、大阪府内の高校生などが参加した。



育成 学外活動認定講習会「スポーツ指導における"怒り"のマネジメント」の開催

開催日：2016年12月20日

本学「生涯スポーツ実践研究センター」と共同で、アンガーマネジメント・ファシリテーター・産業カウンセラーの福成二三代氏をお招きし、「スポーツ指導における"怒り"のマネジメント」を開催しました。アンガーマネジメントは、怒りによって引き起こされる様々な負の連鎖によって、一瞬にして今まで築き上げてきたことが崩壊するのを防ぐためのプログラムです。選手や指導者、スタッフ自身も、怒りの連鎖を断ち切り、スポーツをしているときの怒りの感情をうまくコントロールして、モチベーションアップに活用するためのマネジメントの能力の習得をめざした。

輩出 スポーツ庁委託事業「スポーツキャリアサポート戦略」(平成28年度)における「コーチとしてのキャリア形成支援プログラム」の実施

実施期間：2016年10月～2017年3月

大阪体育大学では、スポーツ指導における体罰・暴力問題の根絶と、体育系大学として新しい時代にふさわしい運動部指導者の育成を目的に、日本体育協会が作成した「コーチ育成のための『モデル・コア・カリキュラム』」に準じた授業として「運動部指導実践論」を新規に開講、講義毎に学外の専門講師を招聘しアクティブラーニング形式にて、将来のグッドコーチの創出を企図した。この取り組みは、次代のスポーツ界を担うアスリートや指導者の育成にも取り組む本学のDASHプロジェクトにおいて、大学スポーツの健全な推進を目的に、その事業の成果と課題を承継していきたい。

国立スポーツ科学センター(JISS)スポーツ科学部心理グループへのインターンシップ

実施期間：2017年3月9日～16日

本学では、2016年3月1日に(独)日本スポーツ振興センター(JSC)と、人的・知的資源の交流と物的資源の活用を目的に包括的連携協定を締結した。その一貫としてJSCのスポーツ科学研究及び競技力向上サポート機関である国立スポーツ科学センター(JISS)へ本学大学院博士後期課程在学学生(専門：スポーツ心理)をインターンとして、JISSが行う研究事業、支援事業などに関わる就業体験プログラムを実施した。今後のスポーツ専門大学として、国際競技力向上で活躍する若手人材の実践経験や国を代表する組織で稼働する様々な人材とのネットワーキングを構築する機会創出として大変良いチャンスを設けることができた。今後も双方の連携・協力を積極的に展開していきたい。

研究 以下の3件の海外視察を行い、ハイパフォーマンスやスポーツの拠点づくりに資する先進事例を調査した。

- リオデジャネイロHPSC(ハイパフォーマンスサポート・センター)(2016年8月15日)
- UCLA(カリフォルニア大学ロサンゼルス校)、USC(南カリフォルニア大学)アスレチックデパートメント及び同管理施設、ロサンゼルス市内スポーツ施設ほか(2017年2月16日～21日)
- IMGアカデミー(フロリダ)、EXOS Phoenix(テキサス)の視察(2017年2月22日～23日)



地域交流 和歌山ゴールデンキッズ・大体大トレーニング合宿プログラムの開催

開催期間：2017年2月11日～12日

和歌山県が県内の小学生を対象に展開している、体力・運動能力が特に優れた子ども達を発掘・育成し、将来のオリンピックをはじめとする国際舞台で活躍できる競技者の輩出を目的とする「和歌山ゴールデンキッズ発掘プロジェクト」の対象アスリートを迎え、本学が有するスポーツ科学の知見や様々な競技種目のコーチング力を活用して、宿泊型の合宿研修プログラムを提供した。1泊2日の短期間であったが、体力測定、大学の専門施設での複数の競技種目のトレーニング体験、スポーツ心理学の講習、スポーツ科学測定のラボの見学など、スポーツ専門大学が有する資源をジュニア世代に体験してもらう機会を提供した。



泉佐野市2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会ホストタウン事業への協力

実施日：2017年2月18日

本学が連携協定を締結している近隣自治体である泉佐野市からの要請で、同市が2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会ホストタウンとして予定しているウガンダ共和国とモンゴル国から泉州国際市民マラソン(2017年2月19日開催)の招待選手として招聘した両国の選手の事前調整のための施設とトレーニング環境の提供を行った。



基盤整備 アスリートの健康管理クラウドデータベースの開発と導入体制の構築

開催期間：2016年5月～2017年3月

本学におけるアスリートの形態・体力・メディカルなどの各種データの蓄積と更新、共有し、選手のコンディショニングやトレーニングのマネジメントを促進するための選手の健康管理クラウドシステムの開発・構築と本学での活用のための運用計画の検討を行った。なお、2017年度からこの構築したシステムを本学ならびに併設校である浪商中学校・高等学校のアスリートにも導入の上、選手の健康管理やトレーニング、コンディショニング管理に活用していく予定である。

DASHプロジェクト広報・PR活動・パブリシティ実績

① DASH公式サイト (http://ouhs-dash.jp/) の開設
開設日: 2016年8月26日



② 日本体育学会第67回大会大会運営事務局ユニフォーム (ポロシャツ) にDASHロゴを掲載
学会大会開催期間: 2016年8月24日~26日



③ 日本体育大学主催「2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて」で本学の学長補佐である藤本教授と梅林教授が登壇
開催日: 2016年10月29日



④ 日本スポーツ振興センター (JSC) 主催「アスリート・キャリア・トーク・ジャパン2017」にDASHプロジェクト 浦久保ディレクター が登壇
2017年2月2日



①【平成28年度スポーツ庁委託事業】「スポーツキャリアサポート戦略における「コーチとしてのキャリア形成プログラム」運動部指導実践論 (担当: 体育学部 土屋裕睦教授) がNHK大阪【ニュースほっと関西】がNHK大阪【ニュースほっと関西】
放映日: 2016年12月22日

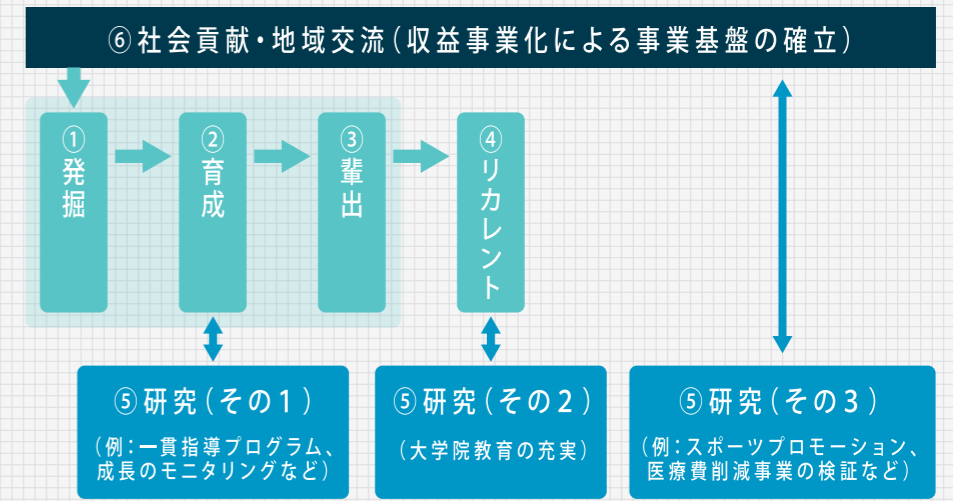
② コーチングクリニック
2017年4月号 (2017年2月27日)



DASHプロジェクトの展望

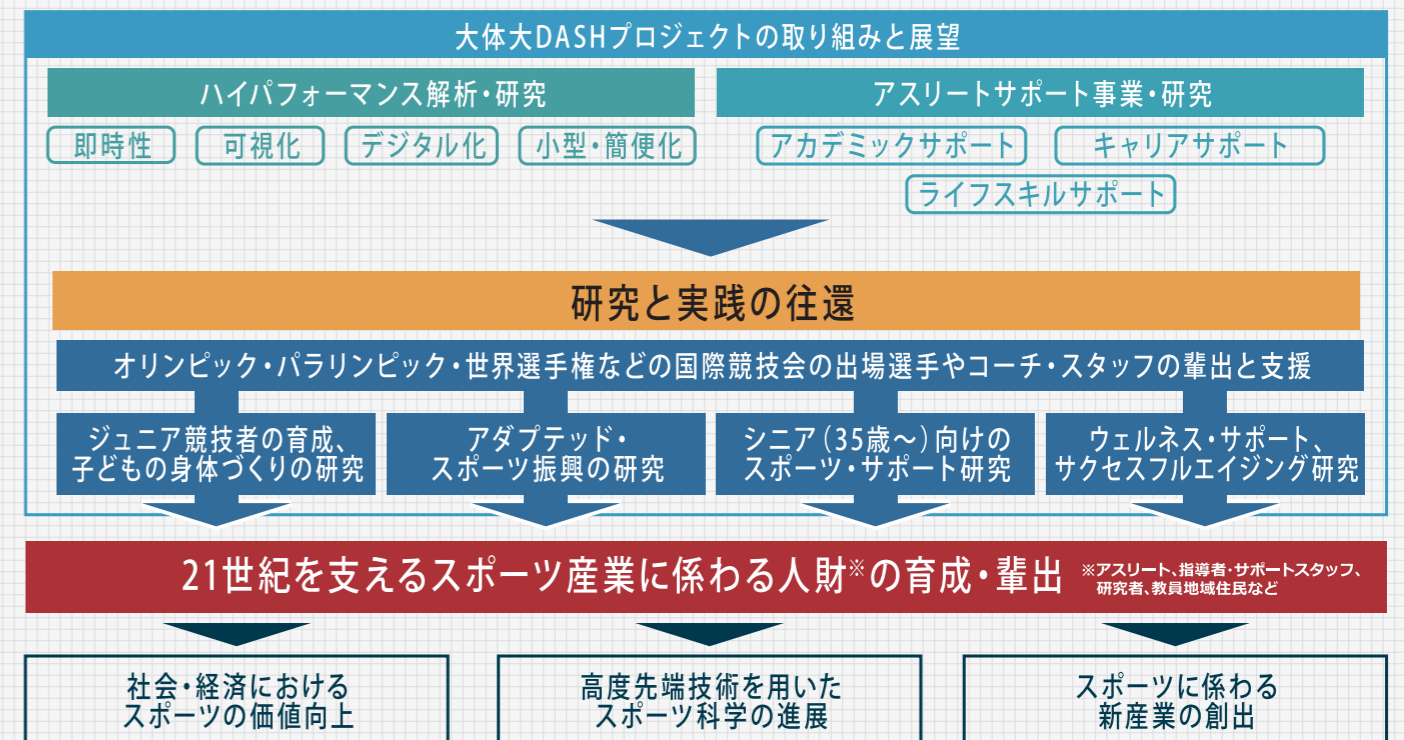
競技力のみならず、人間力にも優れたアスリートの育成を柱に据え、大学の資源である「教育事業」と「研究事業」を効果的に連動させることで、そこから育まれる人財や研究成果を社会貢献や地域交流に活用する。そんな循環型の活動を通じて着実な「拠点づくり事業」につなげることがDASHの大きな目的です。

凡例 (事業の区分)
■ 教育事業
■ 研究事業
■ 拠点づくり事業



大阪体育大学がめざす姿

トップアスリートとコーチ・スタッフの育成 スポーツ科学研究の活用と推進 人間力の高いスポーツ人財の輩出



① ジュニアスポーツの振興 ▶ 子どもたちへ

- ジュニア競技者の育成、子どもの身体づくりの研究
- 浪商中・高との連携によるアスリートの発掘・育成
- 熊取町など周辺自治体への指導者の派遣

③ シニアスポーツの振興 ▶ 一般愛好家へ

- シニア (35歳~) のプログラム開発・健康増進研究の実施
- シニアアスリートへの科学的・実践的サポート
- スポーツにとどまらないパフォーマンス研究の促進 (エンターテインメント、極限環境下の実働者など)

② アダプテッドスポーツの振興 ▶ マイノリティへ

- アダプテッド・スポーツ実施者の外傷・障害研究
- 特別支援学校生徒へのスポーツ実践の機会提供
- 器具などの技術・安全性向上のための用具開発

④ 健康寿命の延伸に係る事業 ▶ 中高齢者へ

- 若返り講座の実施、介護予防事業の展開
- 熊取町など周辺自治体との健康増進研究の実施 (例: 運動による医療費削減効果の検証と事業化)
- 身体活動による生産性向上の研究 (健康経営)

DASHプロジェクトで取り組んだ主な業務 (2016年実績、2017年3月23日作成)

No.	日付	件名	①発掘	②育成	③輩出	④リカレント	⑤研究	⑥地域交流・社会貢献	⑦基盤整備	⑧出講・広報など
01	(通年)	DASH選抜及び認定アスリートの支援活動		○	○					
02	(通年)	次年度以降の入学者のリクルーティング(体操、女子バスケ、水泳、女子陸上)	○							
03	(通年)	陸上トップアスリートの身体機能の解明とトップアスリートサポート・育成プロジェクト(石川先生ほか)		○			○			
04	(通年)	ハイパフォーマンスを実現するアスリートサポート拠点形成事業(梅林先生ほか)		○			○	○	○	
05	(通年)	器械体操における競技力の可視化及び即時フィードバックシステムの構築(藤原先生ほか)		○			○			
06	(通年)	柔軟な雇用制度の投入(担当スタッフに本学博士後期課程在籍者を登用)							○	
07	(通年)	包括連携協定締結機関である日本スポーツ振興センター組織の国立スポーツ科学センター(JISS)へのインターンシップ派遣						○		
08	(通年)	学内スポーツ施設等の外部機関への有償貸し出し						○	○	
09	(通年)	外部資金獲得のための企画営業・公募対応(民間企業及び文部科学省、スポーツ庁など)		○			○		○	
10	(通年)	DASHプロジェクトに係る事業の企画広報・制作(パブリシティの推進など)								○
11	(通年)	選手管理データベースの企画・開発・運用計画の立案		○			○		○	
12	(通年)	本学強化運動部出場大会の視察(男女ハンド、剣道、男子バスケ、男子サッカー、ラグビー)		○					○	
13	(通年)	中高大連携事業推進のための浪商中高との打合せ、事業企画など	○	○						
14	(通年)	包括連携協定締結機関の日本スポーツ振興センター、大阪大学、医療法人スマヤなどとの連携具体化に係る打合せなど					○	○	○	
15	(通年)	日本スポーツ振興センター他主催のセミナーや研究会での情報収集							○	○
16	(通年)	大学スポーツの振興に関する会議(文部科学省)への出席及び関連情報収集及びネットワーキング							○	
17	(通年)	熊取町ほか周辺自治体との連携などに係る折衝						○	○	
18	(通年)	その他、本学の拠点づくり形成に係る学内業務基盤整備に係る事項や組織体制づくりなど						○	○	
19	2016/4/28	【先進事例調査】シンガポールスポーツ科学センターなど視察報告会(平成27年度大学院海外学術交流事業報告会)(藤本先生ら)	○	○	○	○	○	○	○	
20	2016/5/12	DENMARK-JAPAN SPORTS DAYS(石川先生)					○			○
21	2016/5/13	【先進事例調査】Exos(旧Athletes' Performance)躍進の秘密と戦略に迫る		○					○	
22	2016/6/3	ラグビーセブンズ日本代表ヘッドコーチ・瀬川氏講演・壮行会					○			
23	2016/7/8	山本篤選手 リオ五輪出場壮行会					○			
24	2016/7/9	【国際交流】国際バイオメカニクス学会長Gareth Irwin氏(ISBS会長)招聘		○			○	○		
25	2016/7/21	トランポリンコーチ山本宜史氏 リオデジャネイロオリンピック出場 表敬訪問					○			
26	2016/7/29	日体大アスリートサポートシステム(Nittaidai Athlete Support System:NASS)との情報交換		○	○		○		○	
27	2016/7/30	第01回DASHプロジェクトセミナー(日本レスリング協会・清水聖志人氏)								○
28	2016/8/5、6、27	ボート競技タレント発掘トライアウト	○							○

No.	日付	件名	①発掘	②育成	③輩出	④リカレント	⑤研究	⑥地域交流・社会貢献	⑦基盤整備	⑧出講・広報など
29	2016/8/12~18	リオ・オリンピック視察								○
30	2016/8/24	大学院OB・OG会でのDASHプロジェクトの紹介				○	○	○		○
31	2016/9/15	国立スポーツ科学センター(JISS)との連携ミーティング		○				○		
32	2016/9/26	ラグビーセブンズ日本代表ヘッドコーチ瀬川さん招聘講演&慰労会								○
33	2016/10/1	H28年度浪商高等学校第1回入試説明会&第2回クラブ見学・体験会での出講	○	○						○
34	2016/10/7~9	松商学園ウエイトリフティング部合宿開催	○	○			○	○		○
35	2016/10/15	第02回DASHプロジェクトセミナー「シルクドソレイユGM講演会」(開催協力:First-Mover Foundation財団)								○
36	2016/10/17	リオ・パラリンピックメダリスト山本篤さん特別講演&報奨金授与								○
37	2016/10/22	摂泉会支部長会(帝国ホテル大阪)でのDASHプロジェクトの説明								○
38	2016/10/28	JSSリオ五輪水泳日本代表コーチ竹村吉昭さま来学								○
39	2016/10/29	大学アスリートサポートシンポジウム2016in日本体育大学(梅林先生、藤本先生ら)								○
40	2016/11/14	リオ五輪女子バレー監督・眞鍋正義氏 懇談及び報奨金授与						○		
41	2016/11/29	第13回 JISSスポーツ科学会議(梅林先生、魚田スタッフ、牧野スタッフら)								○
42	2016/12/12	学外活動認定講習会「スポーツ指導における“怒り”のマネジメント」(生涯スポーツ実践研究センターとの共同開催)								○
43	2016/12/17	JISS心理グループ特別プロジェクト(浪商への調査など)					○			
44	2016/12/17	大体大OBプロ野球球団AT&SCクリニック(仮称)							○	○
45	2017/1/17	文部科学大臣表彰受賞(支援選手:山本篤選手/ススキ浜松AC所属、大体大DASH認定アスリート、大学院博士後期課程12期、競技力向上研究とトレーニング活動のための施設提供)		○					○	○
46	2017/1/23	DASHプロジェクト・セミナー_アスリートサポート・セミナー_JISS尾崎宏樹氏		○	○		○		○	○
47	2017/1/28	體志会(大阪市立教員の本学OBOG会)でのDASHプロジェクトの説明								○
48	2017/2/2	アスリートキャリアアトークジャパン2017								○
49	2017/2/11	和歌山ゴールデンキッズトレーニング合宿	○	○				○		
50	2017/2/16~28	【先進事例調査】NCAA(全米体育局)所属大学アスレティック部門視察&インタビュー	○	○	○	○	○	○	○	○
51	2017/2/18	DASH特別セミナー中原健聡講師「未来を切り開くために必要なこと」(浪商高校生対象)		○						○
52	2017/2/18	泉州国際マラソン出場選手の前日練習及び施設見学(泉佐野市のオリパラホストタウン事業への協力)					○	○		
53	2017/2/21~25	【先進事例調査】IMGアカデミー&EXOSフェニックス		○						○
54	2017/3/7	170307アスリートサポートシンポジウム_国際武道大学コンディショニング部会(有吉先生)								○
55	2017/3/17~20	関本萌香選手(秋田県立大館鳳鳴高校2年生、2016年度IH女子400Mハードル優勝者(59秒14)の合宿など受入	○							
56	2017/3/28~29	デフリンピック出場選手の中東郁葉(なかひがしいくは)選手の合宿受入	○	○					○	